

令和4年度 地域包括支援センターの認知症施策に関する取り組み

包括	目標	具体的な取り組み	
第一	認知症になっても、最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを目指します。	若い世代や職域サポーターを養成する。	認知症サポーター養成講座の開催：5回（小中学校、放課後児童クラブ、ネットワーク参加事業所）
		認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりや、ICTを活用した検索システムの普及を図る。	・検索模擬訓練の実施：年1回（稲荷町自治会） 参加者：自治会・地域住民・行政・民生委員・ケアマネ等 ・みまもりあいアプリの講話の開催：年1回（ネットワーク参加事業所）
		認知症の人やその家族の社会参加を支援していく。	・既存のオレンジカフェの定期訪問、交流会 ・オンラインオレンジカフェの開催：年1回
第二	認知用になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるサポート体制を整備をしていきます。	チームオレンジ「きずな」の活動として企業と連携してオンラインで居場所や認知症カフェを繋ぎ情報発信を行う。	年2回開催予定 ①薬局薬剤師と連携し、認知症カフェと薬局をリモートでつなぐ活動 ②居場所やしまトレ会場と認知症カフェをリモートでつなぎ活動紹介などを行う活動
		徘徊高齢者の検索についての体制づくりを考える	①徘徊高齢者の事前登録をしている人がいなくなった際どのように検索したのか振り返る。 （行政・警察・自治会・民生委員・地区社協・包括等） ②第四地区で振り返りを基に、どのように検索活動をしたら素早く対応ができるのか検討し、フローチャートの作成を検討する（警察・行政・自治会・地区社協・民生委員・包括で話し合いをする）
		認知症を正しく理解してもらうために、教育機関や企業に働きかけ、認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年4回実施する	第二中学校区の企業や学校に講座案内を配布するとともに、年4回実施する
六合	認知症を本人、家族、地域住民ともに受け入れることができる意識作りをしていく。	認知症の方が地域を見守る応援者として活動できる機会を作る。	①認知症サポーター講座の開催（六合小、六合東小、六合中学校、圏域内の高齢者施設） ②チームオレンジ連絡会（年3回）
		地域住民と協働し、認知症の方や支える方が気軽に集まったりできる場所を紹介、提供する。	①認知症カフェ開催時に専門職の講話を行う。（岸町） ②総合相談から初期集中チーム員会議への移行を早期に連携する。 ③ウエルシアにて認知症カフェを開催。（定期開催）

包括	目 標	具体的な取り組み	
初倉	認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるようチームオレンジが主体的に活動できるよう支援します。	地域住民が関心を持って参加できる講座を企画し、地域に出向き開催する	①あんしんお話カフェ(オレンジカフェ)の開催(年6回) ②はつくら子ども食堂での読み聞かせ(年6回)
		若い世代に認知症の理解を広める。	①認知症サポーター(キッズサポーター)養成講座の開催 初倉小・初倉南小・初倉中学校(年1回ずつ)
		通い慣れた“ふれあい”への参加が安心して継続できるようにする。	①認知症サポーター養成講座の開催 初倉地域ふれあい(全9ヶ所)の代表者が受講(年1回)
金谷	認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指していきます	様々な世代に認知症の基礎知識と理解を広げ地域で見守る応援者として活動する場を広げいく	①認知症サポーター養成講座【年5回】 企業、金谷中学校、放課後児童クラブなど
		チームオレンジ茶っきりの活動の場を広げ、認知症の方も参加できる場所を作っていく	①チーム茶つきり連絡会【年2回】 ②チーム茶つきりのPRチラシを作成する。 ③サロン&茶つきりカフェの拡大
川根	認知症の理解を深めるための周知・啓発活動を行い、多世代で支え合う地域づくりを推進します。	様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げ、地域の担い手づくりに取り組む。	①認知症サポーター養成講座：年4回 ②認知症予防講座：年3回
		認知症の方を地域で支える体制・活動づくりをチームオレンジ、認知症キャラバンメイト、認知症サポーターと共に行う。	①認知症キャラバンメイト連絡会：年1回 ②チームオレンジちゃのみ連絡会：年4回
		認知症カフェや運営推進会議にて、認知症に関する相談支援や課題把握を行う。	駅前お茶のみ会：月1回 運営推進会議：年12回